

報道各位

2020年6月2日

公益財団法人石橋財団アーティゾン美術館

新収蔵作品特別展示：パウル・クレー 2020年6月23日[火]－10月25日[日]

公益財団法人石橋財団アーティゾン美術館（館長 石橋 寛）は、「新収蔵作品特別展示：パウル・クレー」を開催します。

アーティゾン美術館では、4階展示室にて「石橋財団コレクション選」と題し、2,800点余りからなる収蔵品の中から優れた作品を選んでご紹介してまいります。その一角に「特集コーナー展示」を設け、毎回異なるテーマにより収蔵品に新たな光をあてる企画展示を行ないます。2020年は2期に分けて展示しますが、第1回は2020年6月23日[火]から10月25日[日]まで「新収蔵作品特別展示：パウル・クレー」と「印象派の女性画家たち」を、同時開催します。

アーティゾン美術館は2019年に、20世紀前半を代表するスイス生まれの画家パウル・クレー（1879-1940）の24点の作品をまとめて収蔵しました。このコレクションは、著名な日本人コレクターが所蔵していたものです。これら24点はクレーが分離派展や青騎士グループへの参加を通じて頭角を現わし始めた1910年代に始まり、造形教育学校バウハウスで教鞭を執っていた1920年代を経て、晩年にあたる1930年代まで、その画業の大半を網羅した、規模、質ともに国際的にも有数といえるクレー・コレクションです。クレーの本領である、多様な技法と素材を駆使した絶えざる造形的実験の軌跡を明らかに示しており、この希有な創造性をそなえた画家とその芸術のさらなる理解を促す、貴重な作品群であるといえます。

本企画では、これら新収蔵の24点に、既収蔵のクレー作品《鳥》（1932年）を加えた計25点を一堂に展示し、クレー芸術のエッセンスと魅力をお楽しみいただきます。



パウル・クレー 《庭の幻影》1925年

パウル・クレー 略歴



パウル・クレー肖像写真

Paul Klee – portrait

Lebrecht Authors / Bridgeman Images/
DNPartcom

1879年12月18日、ドイツ人の音楽教師の父とスイス人のオペラ歌手であった母との間に、スイスの首都ベルン近郊の町ミュンヘンブーフゼーに生まれる。1900年にミュンヘン美術アカデミーに入学し、フランツ・フォン・シュトゥックの教室に学ぶ。ミュンヘンを拠点に、分離派展や芸術家グループ「青騎士」の活動に参加し、ヴァシリー・カンディンスキーやフランツ・マルクらと交流する。第一次大戦後は、ヴァイマルの国立造形教育学校バウハウスに招聘され、1921年に正式な教授に就任。造形理論の研究、講義、著述を行ないながら、自らの芸術の革新に努めた。1931年にバウハウスの教職を辞した後は、デュッセルドルフ美術アカデミーの教授に就くも、ナチ党が独裁色を強める中、1933年にドイツを離れてベルンに移住。1935年以降は皮膚硬化症と闘いながら、スイス南部の町ロカルノ＝ムラルトの療養所で没する1940年まで、旺盛な創作を続けた。

主要出品作品について

①



《小さな抽象的—建築的油彩（黄色と青色の球形のある）》

1915年 油彩・厚紙 24.1×34.3cm

1914年、「青騎士」の仲間の画家アウグスト・マッケらと北アフリカのチュニジアに滞在した経験は、クレーにとって抽象的な表現への移行を促す重要な契機となりました。その翌年に制作された本作品は、建物の形態が大小の矩形や三角形に還元され、多様な色彩の組み合わせを作り出しており、タイトルの示す通り、抽象への意識は明らかです。画面中でアクセントをなしている黄と青の円形は、チュニジアで目にしたであろう、月の記憶の表出とみられます。

②



《ストロベリーハウスの建築工事》 1921年 油彩・厚紙
39.3×49.5cm

ドイツのヴァイマールに設立された国立造形教育学校バウハウスに教師として招聘された直後の作品です。矩形を主とする幾何学的な要素の平面的な反復は、1920年代初頭のクレー作品にしばしばみられますが、イチゴ栽培を行う小屋の建設現場を描いた本作品では、斜め方向の直線が多用され、3次元的な表現へと踏み出しています。建物のほかに、色面で表された緑地や貯水池や旗、簡略的に描かれた樹木、画中に忍ばせたアルファベットなど、多様な要素が画面に散りばめられ、補色関係をなす赤と緑のグラデーションが展開されています。

③



《庭の幻影》 1925年 油彩・厚紙(木枠に貼付)
24.0×30.0cm

画面の上から下まで水平方向の直線をほぼ均一に引いた画面構成は、バウハウス時代初期、クレーが折に触れて試みたものです。本作品では、画面中央に三本の樹木が象徴的に描かれているのに加え、植物の生える様を表した三本線の分岐したマークが随所に配されています。太陽と思しき赤い円のもとに浮かび上がる庭のイメージは、周囲に暗示的に描かれた教会などの建物とともに闇を思わせる茶褐色に溶け込み、昼とも夜ともつかぬ幻想性をもたらしています。

④



《羊飼い》 1929年 油彩・カンヴァス(合板に貼付)
49.8×67.0cm

模糊とした背景に、人物と4本足の動物たちが幾何学的な線で描かれています。杖を手に手前の4匹の動物から中ほどの動物を守るように立つ人物のポーズは、新約聖書の「ヨハネによる福音書」に説かれた、狼に身をさらす「よき羊飼い」に因んだものと考えられます。多様な色彩が複雑に重ねられた画面の地は、人物と動物たちを浮かび上がらせるように白い光をはらみ、クレーの色彩と光の表現をめぐる絶えざる関心を物語っています。

⑤



《立ち向かう矢》 1933年 水彩、石膏・カンヴァス
24.8×76.2cm

横長の画面がほぼ均一な大きさの長方形の連続によって構成されています。全体に施された塗りのニュアンスが画肌の質感を一様に行っている一方で、3種類に色分けされた長方形の規則的な配置は、リズムカルな動感を矩形の画面内に生み出しています。画面左に暗示的に配された矢印は、1930年前後の時期、幾つかの作品にみられる要素です。クレーと親しかった画商のカール・ニーレンドルフのもとを経て、バウハウスの同僚であった建築家のミース・ファン・デル・ローエに旧蔵されていた作品です。

⑥



《谷間の花》 1938年 水彩・綿布(板に貼付)
42.5×51.0cm

クレーは、幾何学的な形態や点描に基づいて秩序づけられた画面構成を試み続けましたが、1930年代後半になると、不定形の色面を大胆に組み合わせた作品を生み出すようになります。本作品でも、黒の綿布を背景に、形も大きさもさまざまな色面を貼り付けるように配しており、あたかもマチスの切り紙絵を想起させます。谷間の緑や水の流れ、降り注ぐ光の中に花が大輪を開かせる構成は、色彩と形を自由かつ効果的に組み合わせる術に練達した、晩年のクレーならではの手わざといえます。

開催概要

展覧会名：石橋財団コレクション選 特集コーナー展示

新収蔵作品特別展示：パウル・クレー

主催：公益財団法人石橋財団アーティゾン美術館

会場：4階展示室

会期：2020年6月23日[火]ー10月25日[日]

開館時間：10：00ー18：00(毎週金曜日は20：00まで／当面の間、中止)

*入館は閉館の30分前まで

休館日：月曜日(8月10日、9月21日は開館)、8月11日、9月23日

入館料(税込)：日時指定予約制(6月3日[水]よりウェブ予約開始)

一般ウェブ予約チケット1,100円、当日チケット(窓口販売)1,500円、
学生無料(要ウェブ予約)*ウェブ予約チケットが完売していない場合のみ、
美術館窓口でも当日チケットを販売します。

*中学生以下の方はウェブ予約不要です。

*この料金で同時開催の展覧会を全てご覧いただけます。

担当学芸員 島本英明(アーティゾン美術館学芸員)

同時開催

ジャム・セッション 石橋財団コレクション × 鴻池朋子

鴻池朋子 ちゅうがえり(6階展示室)

第58回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展日本館展示帰国展

「Cosmo-Eggs | 宇宙の卵」(5階展示室)

※4階展示室では、本展示を含む「石橋財団コレクション選」、特集コーナー展示「印象派の女性画家たち」もご鑑賞いただけます。



アーティゾン美術館 〒104-0031 東京都中央区京橋 1-7-2

Tel 03-5777-8600(ハローダイヤル)

<https://www.artizon.museum>

交通案内

JR 東京駅(八重洲中央口)、

東京メトロ銀座線・京橋駅(6番、7番出口)、

東京メトロ・銀座線 / 東西線 / 都営浅草線・

日本橋駅(B1出口)から徒歩5分

広報用図版使用の注意

※1点のみ掲載の場合は p.1 と p.3 に掲載されているメインビジュアル③をお使いください。

※掲載時には必ず指定するクレジットをご記載ください。

※文字載せやトリミングはご遠慮ください。

本プレスリリースについてのお問合せ先

「アーティゾン美術館第2期展覧会」広報事務局(株式会社 OHANA 内)

担当：高橋・細川・妹尾

TEL: 03-6869-7881 FAX: 03-6869-7801

E-mail: artizon-pr@ohanapr.co.jp

〒102-0074 東京都千代田区九段南 1-5-6 リそな九段ビル 5F

公益財団法人石橋財団アーティゾン美術館についてのお問合せ先

アーティゾン美術館 広報課 松浦、小川、宮武

E-mail: publicity@artizon.jp

〒104-0031 東京都中央区京橋 1-7-2



アーティゾン美術館は日時指定予約制です

当館ウェブサイトよりご来館前に「ウェブ予約チケット」をご購入いただけます。

入館料 (税込)

	一般	大学生・専門学校生 高校生	障がい者手帳をお持ちの方と 付き添いの方1名	中学生以下
ウェブ予約チケット	1,100 円	無料 要予約 ウェブ予約をされない場合は 「当日チケット」(一般)をご購入ください。		無料 予約不要
当日チケット(窓口販売)	1,500 円			

*ウェブ予約チケット：各入館時間枠の終了 10 分前まで販売

*当日チケット：ウェブ予約チケットが完売していない場合のみ販売

日時指定予約制とは

入館までの待ち時間の緩和、より快適な鑑賞環境をご提供するために、1 日を以下の入館時間枠に区切り、その時間枠内にご入館頂きます。

① 10:00-11:30 ② 12:00-13:30 ③ 14:00-15:30 ④ 16:00-17:30

- 指定した時間枠内であれば、いつでもご入館頂けます。
- 入館後は閉館まで時間制限なくご鑑賞頂けます。入替制ではありません。
- 各時間枠の開始時刻直後は混雑が予想され、入館をお待ち頂く場合があります。開始時刻から多少遅れてのご来館をおすすめします。

ウェブ予約チケット購入方法

- 販売開始日 2020年6月3日 [水]
当館ウェブサイトの中の「チケット購入」画面からご希望のご来館日と入館時間枠をご指定ください。
- 当日でも各入館時間枠の終了 10 分前までご購入頂けます。
- 各種クレジットカードがご利用頂けます。

<https://www.artizon.museum>

「ウェブ予約チケット」の受け取りおよび入館方法

- ① チケットの購入が完了すると、ご指定のメールアドレスに URL を記載したメールが届きます。
- ② この URL にアクセスすると QR コードを取得できます。
- ③ QR コードをお持ちのスマートフォンに表示してご入館ください。
QR コードを紙に印刷してご入館頂く事も可能です。

当日チケットについて

ウェブ予約チケットが完売していない場合のみ、美術館窓口でもチケットを販売します。

予約について

- * 大学生・専門学校生・高校生は無料ですが、入館時間枠の予約が必要です。
入館時に学生証または生徒手帳をご提示ください。
- * 中学生以下の方は無料です。なお、入館時間枠の予約は必要ありません。
- * 障がい者手帳をお持ちの方と付き添いの方 1 名は無料ですが、入館時間枠の予約が必要です。
入館時に障がい者手帳をご提示ください。

グループでのご来館について

- * 中学生以下の方が 10 名以上で来館される場合は、事前に下記までご連絡ください。
ご連絡のない場合、展示室の混雑状況によってはご入館頂けない場合があります。
E-mail: groupdesk@artizon.jp

注意事項

- * 予約確定後はキャンセルすることはできません。
- * 日時指定の変更は1回に限り可能です。
- * 団体割引、シニア割引はございません。
- * 指定日時以外の入館はできません。
- * 営利目的でのチケット転売はお断りします。

アーティゾン美術館 展覧会（2020/6/23-10/25） 参考資料

1. 館長ごあいさつ 2. 展覧会担当学芸員によるステイトメント

2020年6月23日
公益財団法人石橋財団
アーティゾン美術館

1. ごあいさつ

新型コロナウイルス感染症によりお亡くなりになられた方々に、謹んでお悔み申し上げますとともに、罹患された方々には心よりお見舞い申し上げます。

アーティゾン美術館は、展覧会の開幕を延期し休館しておりましたが、6月23日（火）より再開いたします。開館2期目となるこのたびの展覧会は、当館のコンセプト「創造の体感」を、3つのフロアそれぞれに異なるアプローチで具現化し、美術の多彩な魅力をご紹介します試みです。

6階展示室では、石橋財団コレクションとアーティストの共演「ジャム・セッション」の記念すべき初回として、鴻池朋子を迎えました。芸術の根源的な問い直しを続ける鴻池は、本展の開催にあたり「対話」を重ねて主題を深く掘り下げ、近代がつくりだした美術館の枠組みそのものを探りました。円形の大襖絵を配したインスタレーションを中心とするさまざまな仕掛けを通して、鑑賞者の五感に揺さぶりをかけ、新しい美術館の可能性を提示しています。

5階展示室では、ブリチストン美術館及び石橋財団創設者である石橋正二郎とゆかりの深いヴェネチア・ビエンナーレの日本館にて、国際美術展の一環として昨年開催された展覧会「Cosmo-Eggs | 宇宙の卵」の帰国展を開催します。服部浩之がキュレーションを務め、下道基行（美術家）、安野太郎（作曲家）、石倉敏明（人類学者）、能作文徳（建築家）の4名による映像、音楽、資料などで構成されるインスタレーションは、地球と人の「共存」「共生」をテーマとし、同時代を再考するきっかけを与えてくれます。

4階展示室「石橋財団コレクション選」では、所蔵作品の粋をご覧頂けると共に、特集コーナー展示にて「パウル・クレー」「印象派の女性画家たち」をご紹介します。建て替えのための約5年にわたる長期休館中も、収集活動を続けていました。このたび初公開となる新収蔵作品を核とする2つの特集展示が、時代を切り拓いた芸術家の創造に新たな光を当て、その考察と理解を深める機会となれば幸いです。

最後になりましたが、企画の実現にあたりご尽力を賜りました関係者の皆様に、お礼を申し上げます。

公益財団法人石橋財団アーティゾン美術館
館長石橋 寛

2. 展覧会担当学芸員によるステイトメント

【6 階展示室】

ジャム・セッション 石橋財団コレクション×鴻池朋子

鴻池朋子 ちゅうがえり

アーティゾン美術館は、石橋財団コレクションと現代美術家の共演「ジャム・セッション」展を毎年一回の予定で開催することとなりました。その第一回目に鴻池朋子を迎えたのは、アーティゾン美術館の展示室を「ざわつかせる」ことで、これまでにない美術館の姿を見せてくれることを期待したためです。展覧会を開催するにあたり、鴻池は、美術館を構成してきた要素との「対話」によるセッションを重ねました。鴻池のていねいなアプローチによって、アーティゾン美術館という場が、鴻池の生み出す空間に取り込まれていきます。鴻池は、軽やかに「ちゅうがえり」するように新たな視点を提示し、そのなかで、鴻池の作品と19世紀フランス絵画との新たな関係性も生み出されます。

賀川恭子 学芸員

【5 階展示室】

第58回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展日本館展示帰国展

Cosmo-Eggs | 宇宙の卵

昨年ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展の日本館にておこなわれた「Cosmo-Eggs | 宇宙の卵」。この展覧会を日本でも紹介すべく、アーティゾン美術館と国際交流基金との共催で、帰国展を開催することとしました。現代美術の祭典を当館で紹介することに意外性を感じるかもしれませんが、1950、60年代、当館の前身となるブリヂストン美術館では、積極的に国内外の現代美術を扱う展覧会を行っていました。ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展との関わりも古く、1956年自国のパビリオン日本館の建築完成には、ブリヂストン美術館の創設者である石橋正二郎が深く関与しています。帰国展とは何か、キュレーターとアーティストの間でその位置づけを検討することから始まり、再構成したこの展覧会では、ヴェネチアの再現展示に留まらないプロジェクトとしての「Cosmo-Eggs | 宇宙の卵」を感得してもらう内容となっています。

平間理香 学芸担当課長

【4階展示室】

石橋財団コレクション選

特集コーナー展示 | 新収蔵作品特別展示：パウル・クレー

2019年、石橋財団アーティゾン美術館は、20世紀前半を代表するスイス生まれの画家、パウル・クレーの計24点の作品を収蔵しました。当館では、1958年に国内で初めてとされるクレー展を開催しているほか、《島》(1932年)をはじめとする3点のクレー作品を収蔵し、コレクションの重要な要素と位置づけてきました。今回の新収蔵をもって、当館のクレー・コレクションは計27点となり、その画業の重要な局面を跡づけることが可能になったとともに、カンディンスキーやグロスの作品とあわせて、戦間期のドイツ美術の様相をうかがうことができるようになった点に、きわめて大きな意義を見出しています。本展示は計25点の展観により、このコレクションを初めてご紹介するものです。

島本英明 学芸員

特集コーナー展示 | 印象派の女性画家たち

アーティゾン美術館は、その前身であるブリチストン美術館の1952年(昭和27)の開館より、印象派の絵画をコレクションの中心のひとつに据えて参りましたが、このたび開館に向けてこの分野をより充実させるべく、印象派を代表する4人の女性画家たち、ベルト・モリゾ、メアリー・カサット、マリー・ブラックモン、エヴァ・ゴンザレスによる5点の作品をコレクションに迎えることが出来ました。このたびは、これら新収蔵作品を一挙公開すると共に、館蔵の印象派の画家たちによる関連作品、さらには同様に新しく収集された西洋の芸術家の肖像のヴィンテージ写真コレクションから、これら画家たちがかわりのあった芸術家の肖像写真や、画家たちの活躍を伝える文献資料もあわせて展示いたします。

新畑泰秀 学芸課長

■ 本件についてのお問い合わせ先

アーティゾン美術館広報事務局(株式会社OHANA 内) 担当:高橋・細川・妹尾
Tel: 03-6869-7881 Fax: 03-6869-7801 E-mail: artizon-pr@ohanapr.co.jp
〒102-0074 東京都千代田区九段南1-5-6 りそな九段ビル5F

■ 公益財団法人石橋財団 アーティゾン美術館についてのお問い合わせ先

アーティゾン美術館 広報課 松浦、小川、宮武 E-mail: publicity@artizon.jp
〒104-0031 東京都中央区京橋1-7-2 Tel: 03-5777-8600 (ハローダイヤル)